

すべての女の子たちに届けたい応援メッセージ 『ディアガール おんなのこたちへ』

株式会社主婦の友社は『ディアガール おんなのこたちへ』を、1月17日に発売致しました。

本書はベストセラー『おかあさんはね』（マイクロマガジン社）著者&訳者コンビによる期待の新刊として注目を集めています。

原作は著者エイミー・クラウス・ローゼンタールが2015年卵巣がんの告知を受けた時期に書き始め、娘のパリスとともに、2017年12月に上梓。その後世界9か国で翻訳され、米国では20万部を突破、『ニューヨーク・タイムズ ベストセラー』にも選出されました。このたび満を持して、バンド・チャットモンチーの元ドラマー、現在は作家・作詞家として活躍する高橋久美子による翻訳で、日本でも発売する運びとなりました。

“自信をなくしたとき、なにかに迷ったとき開いてみて。
きっと、あなたが世界にたったひとりの愛すべき女の子だと
思い出すでしょう。”

(本書前書きより)

強く優しい言葉と軽やかな挿絵、色鮮やかな世界に
「おんなのこ」なら誰でも共感できるメッセージが詰まっています。

“おんなのこたちへ

きらきらした
おひめさまきぶんの ときもある”

“どろんこなって
はしゃぎたいときもある

どっちも あなたなんだ”



“どうしてだろう？って おもうきもちを
おとなになっても わすれないで”

定価：本体1300円+税
発売日：2019/1/17 AB変判 40ページ
ISBN：978-4-07-435940-0

“まわりを きにせず あなたの

いさをぬろう!

はみだしても だいじょうぶ”

(著者：エイミー・クラウス・ローゼンタール) 作家として、子ども向けから大人向けまで幅広い本を執筆。主な絵本に『アヒルだってば！ウサギでしょ！』（サンマーク出版）、『スプーンくん』（BL出版）、『おかあさんはね』（マイクロマガジン社）などがある。また、代表作の伝記『Encyclopedia of an Ordinary Life』や、自らの著作をもとにした短編映画なども手がける。2017年3月、51歳で死去。

(著者：パリス・ローゼンタール) エイミー・クラウス・ローゼンタールの娘。カナダ、バンクーバーにあるQuest Universityの学生。大学でがん支援グループを始める。闘病中の母とともに本書を執筆。

(絵：ホリー・ハタム) イラストレーター・グラフィックデザイナー・テキスタイルデザイナー。
絵本作品では『What Matters』、『Tree Song』『JACK (NOT JACKIE)』など、イラストを担当。
カナダのオンタリオ州に家族とともに住む。

(訳：高橋久美子) 1982年、愛媛県生まれ。作家・作詞家。バンド、チャットモンチーのドラマー・作詞家を経て、2012年より作家・作詞家として活動する。様々なアーティストへの歌詞提供を中心に、2017年にイラストレーターの福田利之と絵本『赤い金魚と赤いとうがらし』（mille books）を出版。同年、翻訳を手がけた絵本『おかあさんはね』（マイクロマガジン社）が第9回ようちえん絵本大賞を受賞。また、2018年6月にエッセイ集『いっぴき』（ちくま文庫）を上梓。詩の朗読会や創作人形浄瑠璃の脚本など表現の幅を広げ活躍する。
翻訳絵本の近刊として1/23に『パパといっしょ』（トゥーヴァージンズ）を発売予定、早くも話題となっている。

